

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	一般財団法人 住友生命福祉文化財団	
施 設 名	いずみホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	26,614	(千円)
公演事業	23,503	(千円)
人材養成事業	1,292	(千円)
普及啓発事業	1,819	(千円)

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いずみシンフォニエッタ 大阪 第42回定期演奏会	令和1年7月6日	曲目/藪田翔一: ハープ協奏曲「祈りの樹」(委嘱新作)、他 出演/三ツ橋敬子(指揮)、篠崎和子(ハープ)、いずみシンフォニエッタ大阪	目標値	420
		いずみホール		実績値	347
2	バッハ・オルガン作品 アンコール演奏会①	令和1年8月29日	曲目/J.S. バッハ: 《クラヴィーア練習曲集第3部》よりプレリュード変ホ長調 BWV552/1 他 出演/アルヴィート・ガスト	目標値	600
		いずみホール		実績値	552
3	古楽最前線① レザール・フロリサン	令和1年10月12日	曲目/ヘンデル: オラトリオ《メサイア》 HWV56 出演/ウィリアム・クリスティ(指揮、音楽監督)、レザール・フロリサン他	目標値	577
		いずみホール		実績値	514
4	古楽最前線② ピエール・アンタイ	令和1年10月24日	曲目/ラモーン: 《クラヴサン小曲集》よりアルマンド、クーラント、他 出演/ピエール・アンタイ(チェンバロ)	目標値	462
		いずみホール		実績値	357
5	アンドラーシュ・シフ ベートーヴェン ピアノ協奏曲全集①	令和1年11月9日	曲目/ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第2番、第3番、第4番 出演/サー・アンドラーシュ・シフ(ピアノ)、カペラ・アンドレア・バルカ	目標値	700
		いずみホール		実績値	756
6	アンドラーシュ・シフ ベートーヴェン ピアノ協奏曲全集②	令和1年11月10日	曲目/ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第1番、第5番 出演/サー・アンドラーシュ・シフ(ピアノ)、カペラ・アンドレア・バルカ	目標値	700
		いずみホール		実績値	704
7	古楽最前線③ オペラ「ピグマリオン」	令和1年12月14日	曲目/ラモーン: 《ピグマリオン》他 出演/寺神戸亮(バロックヴァイオリン、プロデューサー)、岩田達宗(演出)、小尻健太(振付)、松本更紗(バロックダンス)、酒井はな、中川賢(バレエ、コンテンポラリーダンス)	目標値	616
		いずみホール		実績値	510
8	いずみシンフォニエッタ 大阪 第43回定期演奏会	令和2年2月8日	曲目/マーラー(川島素晴編): 《大地の歌》、他 出演/飯森範親(指揮)、望月哲也、大西宇宙、いずみシンフォニエッタ大阪	目標値	420
		いずみホール		実績値	454
9	バッハ・オルガン作品 アンコール演奏会②	令和2年2月22日	曲目/J.S. バッハ: プレリュードとフーガ ハ長調 BWV545、他 出演/小糸 恵	目標値	600
		いずみホール		実績値	620
10	古楽最前線④ アマンディーヌ・ベイエ	令和2年3月11日	新型コロナウイルス感染拡大による影響を踏まえ中止	目標値	577
		いずみホール		実績値	中止

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>令和元年 10 月に翌年 4 月より「住友生命いずみホール」への改称を発表した。住友生命保険相互会社（以下「住友生命」）の CSR 方針「社会の一員としての役割と責任を認識し、健康で心豊かな社会づくりと地域社会・国際社会の発展に貢献します。」の中で、健康増進に向けた「音楽の力による心のケア」が謳われており、改称によりその役割が一層明らかとなった。これを踏まえて 12 月に改めて目的・運営方針を掲げた。「地域とのつながり」「世界とのドア」という 2 つのミッションを堅持するものである。平成 31 年度の全 13 公演を 2 つのミッションから分類すると、「地域とのつながり」5 事業（いずみシンフォニエッタ大阪、人材養成事業、普及啓発事業）、「世界とのドア」8 事業（バッハオルガンアンコール企画、「古楽最前線」、サー・アンドラーシュ・シフ）とバランスよく組み立てることができた。</p> <p>地域のニーズ「子どもの貧困対策」への貢献の視点からは、6 歳から 18 歳の青少年を主催公演に無料招待する「ユースシートにご招待」、半額の学生券の設定の継続実施が挙げられる。これらは「民間の力を活用」した「第一級の芸術に触れる機会の充実」（「大阪市こどもの貧困対策推進計画」より引用）となり、自治体計画の狙いにも沿ったものであった。また大阪市のプロポーザル事業である小学校（幼稚園保育所）合同鑑賞会では、公益社団法人大阪市音楽団と提携してホール使用料を無償で提供、大阪市内の小学生等 76 校 4,177 名に鑑賞機会を提供した。このような官民協力を通じて、地域のニーズに応えることができた。</p> <p>事業が当初の計画から変更を生じたのは、台風 19 号の影響により公演事業番号 3 において 186 名の払い戻しを行ったこと、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて公演事業番号 10 を中止としたことの 2 点であり、これらは不可抗力の事態ではあったが、最善の対策を尽くしたと考える。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>民間ホールであるが、地域の公共財としての認識に立って事業を行ってきた。また、大阪府内には大規模ホールが多い中で中規模ホールとしての特性を活かした企画による地域貢献に腐心してきた。結果として平成 31 年度は大阪府より初めて大阪府芸術文化振興補助金の交付を得られた（人材養成事業番号 1「オルガンの未来へ～次の世代を育成するために～」）。これは、大阪におけるオルガン芸術の普及、若手オルガニストの育成、子ども達と音楽のふれあいの機会の提供という貢献が評価されたものである。これは、「第 4 次大阪府文化振興計画重要業績評価指数」において大阪府がめざす「文化的環境の整備がされている」「芸術活動が活発になっている」と思う府民の割合を令和 2 年度に 40%を目標とする方針とも合致している。</p> <p>また、大阪市よりいずみシンフォニエッタ大阪の公演に対して大阪市芸術活動振興事業助成金の助成を得ることができた（公演事業番号 1、8）。いずみシンフォニエッタ大阪が地域に現代音楽を紹介するという社会的意義を持って、19 年間 43 公演を重ねてきたことの証左である。</p> <p>普及啓発事業番号 1「夢コンサート」は地域の障がい者団体と連携しながら開催を重ね、障がい者がオーケストラ演奏を楽しむ恒例企画として 17 回目迎え。地域に定着したイベントとなっている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1. 来場者目標

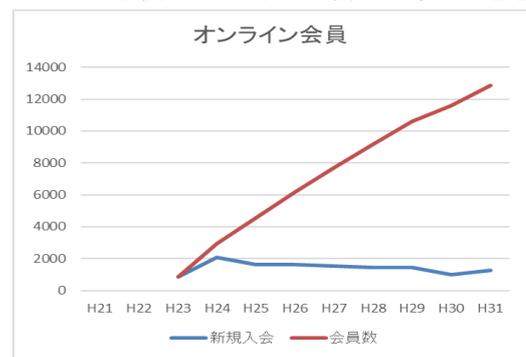
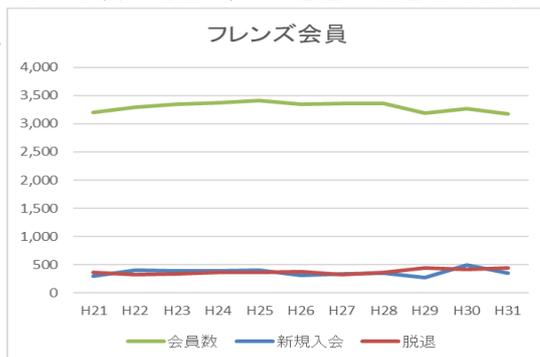
実施事業において、有料公演の目標値はチケット売上額で設定している。全公演を完売目標とするのではなく、芸術性や将来性など、個々の公演の使命を勘案して数値を定めている。平成31年度の「劇場音楽堂等機能強化推進事業」対象事業のチケット売上額は対目標で84.5%の達成率であったが、これは前述した台風19号の影響による払い戻し、新型コロナウイルスの影響によるものであり、それを除いた達成率は94.9%とほぼ目標を達成できた。未達の要因は会員向け割引販売、一部の公演での顧客への魅力伝達力が不足していたためであり、次年度以降の課題としている。人材養成事業番号1「オルガンの未来へ～次の世代を育成するために～」のマスタークラスについては、受講生4名への8時間の公開レッスンに聴講者が112名の目標に対して138名の実売があり、目標を上回った。

無料招待公演（人材養成事業番号1「子どもカレッジ」、普及啓発事業番号1「夢コンサート」）の目標は入場者数としている。子どもカレッジについては、600名の招待枠に対して900名の応募があり、抽選の結果、529名の親子の来場が得られた。夢コンサートは障がい者とその介助者を全席招待する企画であり、目標670名に対して、協力団体に620名、一般募集で50名の招待を行った。盲導犬の同伴、当日の体調等もあり参加率は読みにくいものであったが、616名の来場が得られた。双方ともほぼ目標を達成したと考えている。

集客は平成31年度の「劇場音楽堂等機能強化推進事業」対象全事業計8,042名の目標に対して7,169名（89.1%）という結果であったが、それを除いた達成率は98.5%となっている。

2. 会員数目標

来場者の中心である有料会員（フレンズ会員）数、無料オンライン会員数については、それぞれ前年末の3,270名、11,611名を上回ることを目標とした。有料会員については堅調に増加し、上期末では3,312名であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により次々と公演が休止となり、また窓口入会を取り止めたことにより1月より退会者が相次ぎ、年度末では3,177名と未達となった。無料オンライン会員については年度末12,877名と目標を達成した。



3. 指標

① ツイート総数550回の目標に対して626回と達成したが、ツイッターのインプレッション数180万回の目標に対しては164万回と前年は上回ったものの未達であった。令和2年1月末時点で133万台まで順調に伸びてきていたため、新型コロナウイルス禍による、演奏会開催への関心度が低下したことも影響したと考えられる。

② オンラインチケット販売は目標1公演当たり125枚、販売率24%を目標にしていたが、それぞれ134枚、25.2%と目標を達成した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 事業期間

事業全体が住友生命の社会貢献事業の一環であり、住友生命から単年度毎に寄付金を得ていることから、中期計画は立てず、事業期間は4月1日から3月31日までの事業年度単位としている。

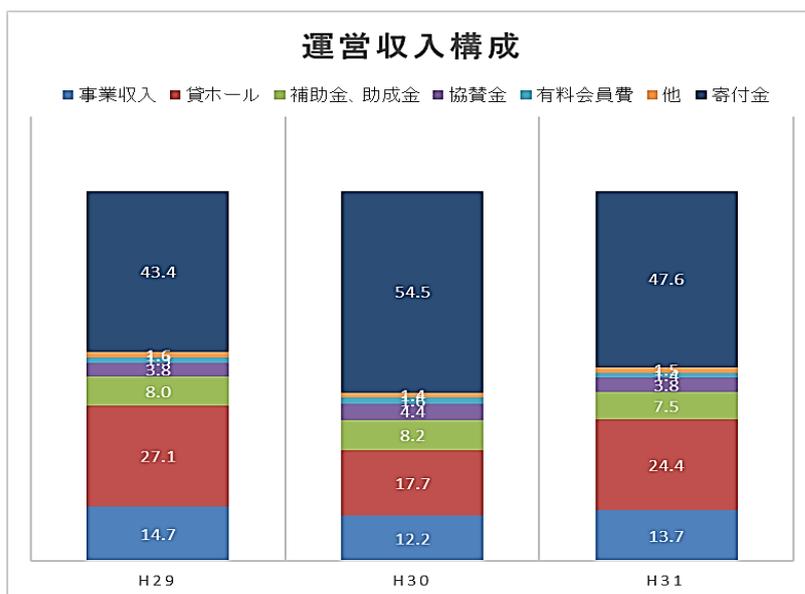
なお、設備投資については中期的に計画を立てて実行している。また、「古楽最前線」「バッハオルガンアンコール演奏会」など複数年度にまたがるシリーズはあるが、予算は単年度毎に策定している。

2. 平成31年度計画

収入；収入全体に占める寄付金の割合を50%以下とし、事業収（公演チケット収入等）15.8%、貸ホール収入23.6%、協賛金3.8%、有料会員会費1.4%、助成金・補助金7.2%、寄付金47.0%を計画

3. 平成31年度実績

収入；収入割合実績 事業収入（公演チケット収入等）13.7%、貸ホール収入24.4%、協賛金3.8%、有料会員会費1.4%、助成金・補助金7.5%、寄付金47.6%



4. 戦略と振り返り

公演企画制作費を支える主たる収入源が貸ホール収入であり、平日割引プランの策定、既取引団体以外への営業展開などに取り組んだ結果、計画を上回る収入を確保できた。チケット収入の増収策として、平日午後に本格的な公演を提供することを主眼に始めた「午後の特等席」の11月公演において、ホテルと提携してのランチセットプランを提供、また外出機会の少ない高齢者施設の方々への提案を開始した。ランチセットプランは146席、高齢者施設の115席の実売が得られた。また、クレジット購入等の手数料負担が大きくなってきたことからスマホ決済の導入も行った。

10月の消費税引き上げによる減収もあったが、やはり新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、主催が3公演、貸ホールの13公演が中止・延期・規模縮小を余儀なくされた。収支は計画を上回ったものの、更なる増益が見込まれていただけに厳しい結果となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1. 研究と実演の両輪

平成 30 年 2 月に逝去した故・礒山雅音楽ディレクターが主導した 3 年にわたる企画であるバロック音楽の最新の潮流を紹介する「古楽最前線」は 2 年目に入り中後期バロックを取り上げた。オペラ「ピグマリオン」は中規模ホールならではのバロックダンスとコンテンポラリーダンスとの融合を実現し、読賣、朝日、日経各紙に批評が掲載され、「とらわれなきバロックオペラの自由な精神を堪能した」（大田美佐子・1 月 10 日読賣新聞）、と評価され、「今年の収穫」（藤野一夫・12 月 24 日日経新聞）にも選ばれた。これらは 28 年間にわたり礒山音楽ディレクターと協働活動をしてきた制作・広報スタッフの創造活動の深化を示す実績となった。

岡田暁生京都大学教授の企画・構成による「ランチタイム・コンサート」は 3 公演を開催。芸術監督にクリストフ・ヴォルフハーバード大学教授を迎えて平成 30 年度に終了した「バッハ・オルガン作品全曲演奏会」は、続編の「アンコール企画」として聴衆のアンケートに基づく上位アーティストの 2 公演を開催した。

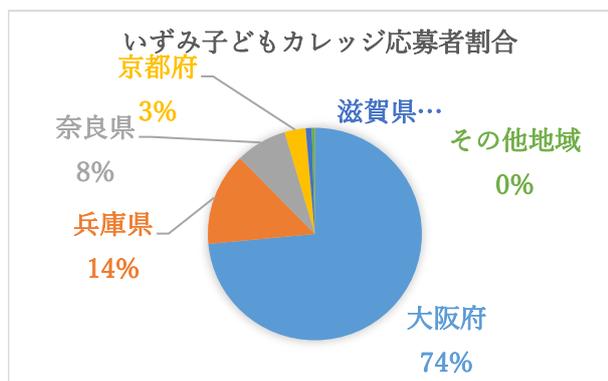
このように研究と実演を両輪とする当ホールの独自モデルは堅持している。

2. 専属楽団

作曲家・西村朗を音楽監督に擁するホール専属楽団いずみシンフォニエッタ大阪は、第 42 回定期演奏会では関西出身の若手作曲家委嘱プロジェクトの第 7 弾として藪田翔一：ハープ協奏曲《祈りの樹》（委嘱新作）」、第 43 回定期演奏会では、大阪出身の中村滋延《善と悪の果てしなき闘い、第一章》（世界初演）など意欲的なプログラムに取り組んだ。「近代・現代音楽を主としたレパートリーを標榜しているところに、その意欲的な独自性を聴くことができよう。（略）こういう個性的なオーケストラが大阪に在るということがもっと全国に知られてもいい」と評された（東条硯夫・MOSTLY CLASSIC 5 月号）。

3. オルガンフェスティバル

公演事業番号 1、人材養成事業番号 1 は「オルガンフェスティバル」と称し、初めて一般社団法人日本オルガニスト協会と共同で 3 日間 4 公演を開催した。日本オルガニスト協会との共催であり、ロビーでハウスオルガンを展示するなど幅広い層にオルガンに触れていただけた。アルヴィート・ガストリュエック国立音楽大学教授を招聘したマスタークラスはバッハ・アルヒーフ・ライプツィヒ共同企画として開催した。平成 30 年度に制作者をフランスから招いて大改修（オーバーホール）を行ったケーニヒ・オルガンの能力を最大に活用した機会となった。また、恒例の「いずみ子どもカレッジ」をこのフェスティバルに合わせて実施し、529 名の入場者を得た。当事業は無料招待・事前応募制をとっており応募者割合は右図のとおりであった。大阪府在住がもっとも多く地元根付いた情操教育の機会ともなった。なおこの企画は、関西出身の若手演奏家 5 名による企画、構成、司会で開催したのが特徴で、若手演奏家が自分たちの取り組む楽器を子どもたちにいかに紹介するか、という経験を積むことができ、芸術を平易に伝達するというスキルを磨く経験を提供できた。



自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

ホールが蓄積してきたノウハウを、地方自治体の施設や大学などに講師派遣をすることで、地域の文化芸術の発展に還元している。

①令和1年6月24日（公財）八尾市文化振興事業団（八尾市文化会館プリズムホール、八尾市生涯学習センターかがやき）の依頼を受け、レセプション・マネージャー2名を派遣し、公演時の来場者への接客研修を実施。事業団の職員29名が受講した。接客の心構え、プリズムホールでの実際の業務に即したロールプレイング研修を通じて、「接客のこころ」を伝えた。

②令和1年10月5日、滋賀県立文化産業交流会館主催「アートマネジメント人材養成講座」に講師としてホール職員を派遣。「アート事業と資金計画」という講座を行った。



③令和1年7月18日、神戸女学院大学キャリアプログラム「アートマネジメント講座」の講師にホール職員を派遣。ホールの取り組みを紹介した。同講座では6月20日にホール見学も請け負った。

④大阪音楽大学より「音楽ホール運営論」（通年講座）の講師を受託している。

⑤在阪の大学よりインターンシップの受け入れを行っている（平成31年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり1大学2名のみ受け入れ）。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの公演が中止・延期に追い込まれている。民間ホールであり契約上は中止公演のキャンセル料をいただくことになっているが、当ホールの貸ホール主催者には中小団体・個人、アマチュア団体といった財政基盤が盤石ではないところも多いため、その活動継続を支援する主旨でキャンセル料の免除等の対応を実施した（期間限定）。

6月のG20大阪サミットに合わせて「ロシアにおける日本年・日本におけるロシア年」の閉会式が開催され、安倍首相とロシア・プーチン大統領もご来館された（主催：外務省）。当ホールでは予定公演の開催日変更、警備など全面協力を行った。

「ロシアにおける日本年・日本におけるロシア年」の閉会式(2019.6.29)
写真提供：外務省



(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

1. 財務面

持続的な運営維持のためには経済的安定が肝要であるが、その基盤は設置者である住友生命からの寄付金であり、財団に毎年 385 百万円（ホール分見合いとして 199 百万円）の寄付がある。当ホールの事業の主たる収入源はチケット収入等の事業収入と貸ホール事業の収入であり、全部署担当者による月例会議、財団本部との定例会議を開催し、予算遂行状況の確認と対策協議を行っている。

前記に加え収益強化のために、資金調達活動を平成 16 年度から積極的に展開した。協賛企業からの協賛金は毎年 15 百万円前後を得て安定している。公的助成金・補助金獲得にも挑戦し、平成 18 年度以降ほぼ安定して年額約 20 百万円から 30 百万円を頂いている。平成 31 年度は大阪市に加えて大阪府からの助成もいただくことができ、民間の助成と併せて毎年 30 百万円前後の助成が得られている。主催公演事業が積み重ねてきた高品質の企画への信頼と支持の証である有料会員（フレンズ会員）は、開館以来 30 年間約 3000 名以上を堅持し、毎年 6 百万円前後の収入を得ている。

平成 30 年度は改修に伴う半年間の休館による影響はあったものの、この 3 年間の収支は安定している。

2. 人材面

経済的基盤と並び重要な人材面では、熟練した人材の整備ができています。職員 24 名中 18 名が直接雇用・正規雇用職員である。平均年齢 44 歳、業務に精通し、長期でキャリアパスを築ける仕組みになっている。また、演奏会の接客要員（レセプションист）もホールが直接採用、養成、管理をしており、高いサービス力で施設の魅力を高めてきた。正規雇用者の候補でもあり、令和 2 年度の新規採用は 16 名と積極的に人材確保を行った。

3. ネットワーク

当ホールは民間ではあるが公立文化施設協会に準会員として所属し、劇場・音楽堂等間のネットワークにも参加して、運営上の最新情報を入手、更新している。また、姉妹ホールも含めた他ホールとの連携も継続している。教育機関との連携は前述の通りである。

4. PDCA

平成 31 年度は新たな顧客層の開拓に向けて、高齢者施設利用者へのアプローチ、財団他事業（人間ドック健診事業、福祉事業）とは有料会員には健診料を割引くなどの連携を深めた。

令和 2 年度に向けては、組織の更なる強化のため営業部の新設、経営戦略調査担当の任命を行った。また、ホール名改称の趣旨である住友生命とのより連携を深める取り組みを進めていくこととしている。